

刊行によせて

## 第 一 号

弘前学院大学長 吉 岡 利 忠

北東北に位置する弘前学院大学は、現在、文学部、社会福祉学部、看護学部の3学部および社会福祉学研究科および文学研究科の2大学院研究科を有する総合私立大学になりました。その社会福祉学研究科人間福祉専攻修士課程を修了した大学院生による論文抄録集第一号が、めでたく刊行されることになりました。このことは、大学として初めてのことです。また、第一号に寄稿できることは誠に光栄なことでありかつ記念すべき事です。

大学院生の詳細な調査、研究、文献検索はもとより、論文としての体裁、最初の一行から最後の句点までを担当教員の絶え間なく並々ならないご指導によってここに論文集第一号としてまとめられました。担当教員の方々には深く感謝いたしております。

各大学院生がまとめた論文題名に表されるように、それぞれ大変興味ある内容が盛り込まれています。その論文は、読む方々を唸らせるものだと高く評価しています。日頃、論文題名が極めて重要なファクターであると考えており、その論文題名が興味をそそるものであるかどうか全てを表現しており論文の中身を開くか開かないかに係っているようです。例えば、研究費を大学外あるいは研究所外に求めるとき、すなわち競争的研究費獲得にあたり、申請研究内容が短い題名の中にきちんと盛り込まれているかどうか最も重要な点になります。度々、申請書の審査をするにあたり考えていることです。数多くの申請書が手元にくると、どうしても題名が光ったものに目が行くでしょう。その申請書の中身を読もうとする気が起るものです。その内、ほんの僅かな数の申請書が研究助成を受けることになるわけです。

本号に論文を載せ大学院を修了した方々は、これから博士論文、原著、総説などを作成する機会もあるでしょう。題名については、熟考して付けるようにしたいものです。

今後、本論文抄録集は多くの専門分野の研究者の目に付くことになり、関係部課署にも配布され、国の機関にも保管されることになるでしょう。論文は厳しく評価されることにもなり、本人にその結果がフィードバックされるでしょう。そのことを真摯に受け止め、次なるステップに進んで行ってほしいものです。また、本論文集は、社会福祉学研究科をこれから修了する後輩へ先輩としてのよき手本そのものです。

弘前学院大学大学院在学中に立派な論文を纏め上げ、修了証書を受けるときには、こみ上げるものがあるはずです。